

主張

「人」を育て、「知恵」を生み出し、「未来」の基盤をつくる
↳スポーツ・文化芸術活動の充実に向けて↳

福地裕之



「地域の子供たちは、地域で育てる」これが日本の教育のよき伝統であり、日本らしさでもありました。しかし、不審者による事件・事故の発生や新型コロナウイルス感染症対策により、地域との交流も制限されてしまいました。昔の日本では、三世代同居型家庭が多く、親以外に多くの大人が子供に接し、近所の人まで家庭教育を担ってくれていたのですが、少子化・核家族化等の影響により、地縁的つながりの中で子育ての知恵を得る機会も乏しくなっていました。

学習指導要領総則には、「学校がその目的を達成するため、学校や地域の実態等に応じ、教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、家庭や地域社会との連携及び協働を深めること。また、高齢者や異年齢の子供など、地域における世代を越えた交流の機会を設けること」とあります。そこで、私の勤務している福島市立福島第四中学校では、「福島型個性をのばす教育推進事業『プレミア美術教室』」を展開しています。この事業は、福島市出身であり、本校の卒業生でもある日本画家・齋正機氏を講師とし、年五回、地域の中学校の美術部員を対象として行っています。本校を拠点校とし、他の中学校からも参加できるという、まさに、学校部活動の文化部に



おける地域連携・地域移行の一つにも考えられます。学校という枠を越え、他校生・異年齢の子供たちの交流は、文化芸術に触れるばかりでなく、人間形成にも寄与するものです。本校は信夫山という小さな山の中腹にある学校で、福島市内を見渡すことができ、近くには、図書館や美術館、文化センターがあり、まさに、文教地区に位置する環境の中にあります。「プレミアム美術教室」によって、どのような風景画ができれば期待しているところ です。

現在、部活動の地域連携・地域移行と地域スポーツ・文化芸術環境の整備に向けて、積極的に推進が図られています。それに併せて、将来にわたって、スポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を設け、地域の子供たちは地域で育てる意識をもつて、地域の資源を活用し、生徒のニーズに応じた、多様で豊かな活動を実現できる組織的なまちづくりが提案されています。

地域社会の中でのスポーツ・文化芸術活動を通して、大人や様々な友人と交流しながら、子供たちが自らの興味・関心や、自らの考えに基づいて自主的に行っていくことは、大きな意義があると考えられます。地域社会は、地域の大人たちが子供たちの成長を温かく見守りつつ、時には厳しく鍛える場になること、また、地域社会が単に人々の地縁的な結びつきによる活動だけでなく、子供たちを育む場になることが必要です。そのためには、様々な人々が、地域社会に対して、互いに理解し合い、支え合いながら積極的に関わっていくという意識を学校教育の中で更に醸成していくことが必要なのではないでしょうか。

(全日中副会長・福島市立福島第四中学校長)